

安川電機 2020 年度 第1 四半期 決算電話説明会 質疑応答 (サマリー)
(2020 年 7 月 10 日 (金))

【回答者】

代表取締役 専務執行役員 村上 周二

広報・IR 部長 林田 歩

(注記) :

モーションコントロール : モーションコントロールセグメント

AC サーボ : AC サーボ・コントローラ事業 (モーションコントロールセグメント)

インバータ : インバータ事業 (モーションコントロールセグメント)

ロボット : ロボットセグメント

システムエンジニアリング : システムエンジニアリングセグメント

その他 : その他セグメント

Q 決算補足説明資料(P.23)の四半期受注推移について、2020 年度 1Q の各事業の地域別増減率は？

A ・AC サーボ

YoY : 全体 +3%。

内訳は、国内+4%、米州▲12%、欧州▲28%、中国+14%、その他アジア+15%。

QoQ : 全体+4%。

内訳は、国内▲10%、米州▲38%、欧州▲14%、中国+83%、その他アジア▲8%。

・インバータ

YoY : 全体▲21%。

内訳は、国内▲12%、米州▲32%、欧州▲35%、中国▲5%、その他アジア▲23%。

QoQ : 全体▲6%。

内訳は、国内▲5%、米州▲17%、欧州▲37%、中国+53%、その他アジア▲26%。

・ロボット

YoY : 全体▲18%。

内訳は、国内▲8%、米州▲41%、欧州▲8%、中国▲17%、その他アジア▲30%。

QoQ : 全体▲4%。

内訳は、国内▲22%、米州▲45%、欧州+12%、中国+69%、その他アジア▲15%。

※YoY(year-on-year) = 前年同期比、QoQ(quarter-on-quarter) = 前四半期比

Q 2020 年度 1Q の AC サーボ・インバータの地域別売上比率は？

A AC サーボ : 国内 31%・米州 13%・欧州 8%・中国 34%・中国除くアジア 13%

インバータ : 国内 20%、米州 34%、欧州 10%、中国 28%、中国除くアジア 8%

Q 2020 年度 1 Q のモーションコントロール売上に占める AC サーボ:インバータの比率は？

A 61:39

Q 決算補足説明資料(P.12)の 2019 年度 1Q から 2020 年度 1Q の営業利益増減分析の各増減要因のセグメント内訳は？

A 為替影響の内訳はモーションコントロール▲7 億円、ロボット▲5 億円。

売上減による利益減の内訳は、モーションコントロール▲8 億円、ロボット▲25 億円、システムエンジニアリング▲5 億円。

付加価値減少分の内訳は、モーションコントロール+4 億円、ロボット▲9 億円、その他▲2 億円。

経費の減少による利益影響額の内訳は、モーションコントロール+12 億円、ロボット+18 億円、システムエンジニアリング+5 億円、その他▲1 億円。

その他は IFRS 移行に伴い、従来営業外や特別損益に含まれていた補助金などの項目が営業利益に含まれるようになった影響で、その内訳は、モーションコントロール+2 億円、ロボット+3 億円です。

Q 中国の AC サーボは在庫積み増しの動きもあり好調に推移したが、その反動も懸念される。1 Q の受注の動きおよび今後をどのように見ているか？

A 2 月は新型コロナウイルスの影響でオペレーションが止まっていたが、様々な分野での 5 G 関連投資の動きが 3 月に入り急激に立ち上がり、1 Q を通して供給が逼迫した状態が続いた。

中国の先行きについては、外需の動向に懸念が残っていることもあり、1 Q の在庫積み上げは 2 Q に入り落ち着いてくる。これは、季節要因である例年の 1Q から 2Q への受注の動きと同様。

中国スマートフォンの 5 G 化は進んでいるが、iPhone は従来の計画から 2 ヶ月程度遅れて動いているようだ。今までのところ iPhone の 5 G 対応向けの受注は入ってきていないが、2 Q から受注につながってくると考えている。

それらを合わせて、2 Q では中国の受注は若干調整されると見ている。

中国以外の地域は 1Q 並みの見通し。

Q AC サーボの半導体関連の受注動向はどうか？

A 引き続き堅調に推移する見込み。日本・韓国・米国のお客さまは 1 Q から 2 Q にかけて強い見通しを持っている。

Q ロボットの受注が去年の中ごろから YoY、QoQ で減少が続いている。自動車メーカーの投資意欲は 3 ヶ月前からどのように変わったか？

A 中国のロボットは、AC サーボと同様に 2 月にストップし 3 月以降に立ち上がってきた。自動車関連市場では、中国政府の政策により設備投資を前倒しする動きがあり、1 Q は受注が強かった。足元では自動車の生産台数も増えており、中国の自動車は堅調。また、EV や新エネ車の工場が建設されていることもあり、他の地域に比べ強い動き。

中国以外の地域は、新型コロナウイルスの影響が出ており、以前から計画されていた案件については 3 ~ 4 月に比較的強く入ってきていたが、その後減速した。2 Q も自動車向けに関しては中国以外の地域は厳しいと見ている。

Q 美的（中国）との JV 解消が報道されていたが、その真意は？

A 家電・3C のアプリケーションの強化に美的との JV を通じて取り組んできた。美的が KUKA 買収に動いている中でも当社のロボットを採用してもらっていたが、KUKA のテコ入れもあり、当社としてこれ以上 JV を続けても美的との事業拡大が難しいということもあり、通常のお客さまとして取引することとした。なお、家電・3C 向けでは他のパートナーとも協業を進めている。

Q 1Q の期初計画に対し、売上は未達だったが、利益が上ぶれた要因は？

A 最大の要因は、経費節減。新型コロナウイルスのため活動できなかった部分もあるが、グローバルで経費コントロールを実施した。

モーションコントロールは在庫が増えたことによる操業度改善も効いている。ロボットもセットアップができなかった(翌期にずれ込み)ため仕掛かりが増え売上につながらなかったが、操業度は改善した。

ロボットは、在庫を2Qに解消し元に戻す計画をしており、2Qの利益は、売上に対し少ない計画としている。

Q 経費の使い方としては「有事」モードを継続するのか？

A テレワークなどで継続的に対応し、不要不急の経費は抑制していく。

Q ニューインフラへの投資は、具体的にはどのようなもので、どの事業に関わっているか？

A 一番大きく関わるのは5G関連で、端末だけでなく基地局やデータセンタへの投資が含まれる。

新エネルギー関連の投資では、太陽光パネル製造にACサーボ、ロボットが使われ、レーザー加工機などへ裾野も広がっている。

5G、IoT、データセンタなどで使用する製品そのものだけでなく、インフラ・ネットワークへの投資により、モーションコントロール、ロボットに幅広く恩恵がある。

Q 1Q～2Qにかけての工場の稼働状況は？

A 1直ベースで、1Qの稼働率は全体として110%程度。

ACサーボは110%程度、うち中国は180%程度。

インバータは110%程度、うち中国は130%程度。

ロボット60%強、うち中国は50%強。

足元の6月は、全体として120%強。

ACサーボは130%程度、うち中国は200%超。

インバータは120%弱、うち中国は130%弱。

ロボットは70%程度、うち中国は60%強。

Q 2Q受注をどのように見通しているか？

A ACサーボは中国が調整し、トータルで2Qは減少すると見ている。

インバータはオイル&ガスの低迷が続き、他の市場での活動回復による挽回すると見込むも、全体ではフラット。

ロボットは3月に強かったところから新規案件が絞られてきたため、1Qより2Qを厳しく見ており、在庫も抑える計画。3Qからは回復する見方もあるが、グローバルな自動車関連需要の見通しが依然不透明で、通期を見通せない要因である。ポジティブな面は、中国では新型コロナウイルスの影響が抑えられれば通常に戻っており、補助金などの促進策や株価高で製造業に資金が回っている。これらが具体的な需要につながれば下期拡大する可能性があり、2Qがボトムになると見ることができる。

Q YoYで見ても経費抑制効果が大きくなっているが、プラスアルファの取り組みがあったか？

A グローバルにトップダウンで経費コントロールに取り組んでいる。労務費もインセンティブは業績連動となっており抑制されている。

外注費なども0ベースで見直しをかけている。この機会に固定費の圧縮を更に進め、ボリュームが少ない状況でも10%の利益が出せる利益構造の実現に向かって付加価値アップと並行して取り組んでいる。そして、来年以降ボリュームが戻れば中期経営計画で目標とする13%の利益率を狙える足場作りを進めていく。

Q 1Qの需要環境について、想定より良かった地域、悪かった地域は？

A 欧米についてはかなりのリスクを織り込んでいたが、ほぼその水準まで落ちた。特にロボットは新しい案件が出にくい状況になっており、セットアップも難しい状況が続いた。中国は改善を見込んだが想定に近い状況で推移した。

Q 3ヶ月前に比べて市場ごとの見通しはどのように変わったか？

A オイル&ガスは想定以上に落ちた。プラス面としては、ヨーロッパで医療用ガスボンベの溶接など特需として新しい用途が出てきた。今後米中問題がどうなるかは注視が必要だが、中国は政策が効果を出し始めており、期初想定したより明るいとする。

Q 2020年度2Qのモーションコントロール売上に占めるACサーボ:インバータの比率は？

A 60:40

Q 2020年度1Qから2020年度2Qの営業利益増減の内訳について教えてほしい。

A 為替影響が▲1億円。

各セグメントとも▲0億円。

売上減による利益減が▲5億円。

内訳は、モーションコントロール▲9億円、ロボット+3億円、システムエンジニアリング、その他は各+0億円。

付加価値減少が▲7億円。

内訳は、モーションコントロール▲3億円、ロボット▲7億円、システムエンジニアリング▲2億円、その他+5億円。

経費増による利益影響額が▲3億円。

内訳は、モーションコントロール+1億円、ロボット+0億円、システムエンジニアリング+0億円、その他▲4億円。

その他は▲2 億円。

内訳は、モーションコントロール▲0 億円、ロボット▲2 億円、システムエンジニアリング、その他は各▲0 億円。

Q AC サーボ稼働率が足元 200%超とことだが、2Q の稼働率が付加価値に与える影響は？

A 2Q は稼働増加で付加価値には若干プラスの見込み。6 月までは受注残解消のため、フル稼働しているが、受注見通し次第で、今後稼働は若干減速する計画。

Q 2Q の iPhone 関連の受注はロボットについてはどうか？

A スマートフォン関連のロボットの案件はあり、2Q に成約する計画のものもあるが、受注の時期は後ろ倒しの傾向。

Q 5G 関連需要の伸びが中国の AC サーボにどれくらい寄与するか？

A 5G 関連で基地局やデータセンタなどのために、工作機やレーザー加工向けの受注が増えている。参考として、中国 AC サーボの 1Q の主なエンドマーケットは、電子部品 20%、工作機・金属加工機合わせて 60%強となっている。

Q 基地局やデータセンタなどの 5G 関連投資は好調が続くと見てよいか？

A インフラ系は続くと考えられるが、例年中国は 1Q に一気に動いて 2Q は調整する傾向。1Q からさらに強くなることは厳しい。

また、5G 対応の iPhone も、大きく製造装置を変えるほどではないため大きな投資が起こることは期待しづらい。

Q 中間配当が 12 円となり、配当性向が約 40%となった。今後もこの水準を継続するか？

A 昨年は、期初計画をベースに配当性向 30%+αの水準で配当額を決めた。期中に業績の方は下方修正する結果となったが、キャッシュについては、計画通り配当しても財務構造が大きく悪化しない状況だったため、配当金額は変えず、結果的に昨年度は配当性向が 80%を超えた。

今年度は先行き不透明感もある中、安全性を考慮して従来の配当性向 30%+αをベースに、配当予想を設定した。

以上